

## 県北地域における有機米栽培の取組事例

県北地域においては、現在、環境負荷低減による持続可能な農業の実現と、付加価値を高めた農産物生産による農業所得の向上を図るため、有機農業の取組が展開されており、その中で、有機米の栽培においても、工夫された取組が進められております。具体的には、約50年近くも有機米栽培に取り組んでいる事例や、近年、有機米栽培の取組を開始した事例、また、アイガモ農法による取組事例などがあります。

### ◇ 菅野さん（日立市 十王）

<菅野さんからのコメント> \*取組概要等

- ・有機栽培の取組も、約50年になる。お米と野菜で取り組んでおり、どちらも有機JASの認証を受けている。→水稲：約5ha
- ・有機JAS認証の際には、隣地との関係もあり、特に、田については、水管理を含めて、立地条件に応じた対応（工夫）が必要になる。
- ・現在、概ね3パターンで対応をしている状況。水を確保しやすいところでは、「深水管理」が可能だが、水の確保が十分でないところでは、「深水管理」が困難なため、除草作業に留意して作業をしている。その2つの中間的なところを含め、状況に応じた工夫が大事。
- ・以前は、アイガモ農法も取り入れていたが、毎日、畑作もある中での管理（鳥獣被害等）が大変であり、（アイガモ農法は）やめた。アイガモ農法の時は、8～10俵もとれたが、現在は、6俵くらいになっている。



（上流部）



（中間部）



（下流部）

<菅野さんからのコメント> \*工夫点等

- ・雑草対策のひとつとして、「深水管理」との組み合わせが効果的なことから、全ての田をそうしたいが、実際には、条件に適したような圃場はあまりないのが現実。
- ・このため、除草対策として、自分で市販の田植機を乗用除草機に改良（アタッチメント部分工夫）して、（有機栽培で負担の大きな）除草作業の負担を軽減している。
- ・また、抑制効果が期待できるものとして、「トロトロ層」（の形成）があると考えている。微生物や小動物が活性化し、トロトロ層を形成することにより、「雑草の発生が抑制」されている。（そこを目指している）

### ◇ 大久保さん（大子町 山田）

<大久保さんからのコメント> \*取組概要等

- ・米づくりは長くやってきたが、有機米の栽培の取組の方は、ここ4～5年であり、今も、自分なりに工夫しながら進めているところ。
- ・水田は受託等も含め、全体で約35haくらいだが、有機JAS認証の田は3枚（約30a、約20a、約10a）で約60aとなっている。
- ・「有機米だから」と言って売れるような時代ではない。コシヒカリではなく、カミアカリで差別化している。（全国で生産者6人）特に、有機農業は、売り先（売り方）をよく考えてから進めなければならないと思う。



（有機JAS圃場：表示板）



（水位センサー）



（多様な生物：クモ）

<大久保さんからのコメント> \*工夫点等

- ・収穫後から田植え前までに5回の作業が大事（耕起3回＋代かき2回）。さらに、除草は、田植え後、エンジン付歩行型除草機で1回に加え、乗用除草機で3回、状況を見ながら実施している。除草機は自分で改良した。
- ・深水（9cm）管理は、水位センサー活用（スマート農業の導入）して、できるだけ「負担の軽減」を図っている。

### ◇ 小林さん（常陸太田市 芦間）

<小林さんからのコメント> \*取組概要等

- ・米は、有機米や特別栽培米も取り組んでいる。
- ・アイガモを始めて（茨城合鴨水稲会に入会）約20年、有機米JAS認証を受けて、約10年になる。現在、水田約4haのうち、約50aをアイガモ農法で、有機米を栽培している。雑草も食べるので、除草作業が軽減される。



（アイガモ）



（電気柵、テグス）



（有機米販売：道の駅）

<小林さんからのコメント> \*工夫点等

- ・イタチの被害を受け、電気柵での管理に留意している。また、カラス等の対策には、テグスも設置している。

県北農林事務所では、関係機関等との連携により、有機農業の取組推進を図っているところであり、今後とも、現場における技術支援や、研修会の開催、また、補助事業を活用した取組支援などを通して、県北地域における有機農業の取組を推進してまいります。